

資料 3 8

厚生労働科学研究費補助金による研究事業（厚生労働省）

研究課題 1 『家庭内暴力被害者の自立とその支援に関する研究』

D V被害を受けた母子に対しての早期介入の方法論や健康回復のためのケア技法の確立、就労・子育て支援などの生活再建に向けた総合的支援の充実に関連した調査研究を実施する。

1. 研究者 石井 朝子（社会福祉法人理事）他
2. 研究予定期間 平成16年度から平成18年度までの3か年
3. 研究の概要

全国の配偶者暴力相談支援センター及び母子生活支援施設における被害母子の暴力及び精神健康の実態を明らかにし、我が国におけるD V被害者への援助のあり方を検討する。

民間シェルター、婦人相談所及び病院に来院した被害母子の精神健康を回復するための早期介入やケア技法の検証を行う。

民間シェルターの提供する援助の実態を明らかにするとともに、被害者支援の充実に図るための福祉施策と法的整合性の検討を実施する。

研究課題 2 『母親とともに家庭内暴力被害を受けた子どもに被害がおよぼす中期的影響の調査及び支援プログラムの研究』

家庭内暴力（D V）において母子ともに被害を受けることによる、子どもへの心理的な被害、その後の発達、社会適応上の問題を明らかにするとともに、被害後の母子の健康及び母子間の相互関係を中期的に検討し、支援プログラムを作成する。

1. 研究者 金 吉晴（国立精神・神経センター）他
2. 研究予定期間 平成17年度から平成19年度までの3か年
3. 研究の概要

シェルターを出て社会で生活を始めた母子のフォローアップとして、母子で被害を受けた子どもがその後どのように社会、学校に適應していくのか、母子の身体的健康及び精神的健康、母子間の相互関係の状況、今後の子どもの保護と回復にとって母親がどのような役割を果たすことができるのか、そのために母親が必要としている保護と援助はどのようなものか、を調査する。

子どもの回復を支援するために利用可能な既存のシステムの有効的な活用方法を検討し、社会適應における子どもの人格・行動の問題の関連性等について検討を加え、D V被害を受けた子どもの回復のための支援プログラムを作成する。